



大分県議会議員 自由民主党 宮成 公一郎 (竹田市選挙区)



ブログ更新中

9月4日開会した令和7年第3回定例県議会は9月24日に閉会しました。
この間、暑い夏も過ぎ去り、敬老会や運動会も終え、山里は収穫の秋を迎えています。
第3回定例会では、経済対策を中心とした補正予算案等の議論・議決に加え、自身5回目となる一般質問を行いました。
今号では、補正予算の概要に併せて、県議会や自民党会派の活動についてお伝えします。

■一般会計補正予算の概要

賃上げと人手不足対策、安心・元気・未来創造ビジョン 2024 の推進に必要な政策経費などの増額補正を行いました。

補正予算案	+	既決予算額	=	累計
10,833,784 千円	+	703,093,440 千円	=	713,927,224 千円

1 中小企業等業務改善支援事業 37,500 千円

最低賃金の大幅な引き上げの中、国の業務改善助成金の採択を受けた中小企業等に対して、県独自の乗せ支援を拡充。

- ・対象 最低賃金改定幅を超え引き上げをおこなった中小企業・小規模事業者
- ・補助率 業務改善に要する経費の自己負担分の 2/3、限度額 100 万円以下

2 労務単価の上昇を踏まえた委託料増額 101,897 千円

契約後の大幅な労務単価の上昇に対応するため、県発注の委託業務（清掃・警備、機械保全）や指定管理施設委託等に賃金スライド制度を導入。

3 医療提供体制緊急支援事業 550,595 千円

医療需要の変化や人手不足に対応できる医療提供体制を確保するため、病床数の適正化等に取り組む医療機関を支援。

- ・病床数の削減に係る給付金（410.4 万円 / 削減病床）
- ・病床の機能分化に伴う施設整備における物価高騰分の助成（補助率 2/3）
- ・コロナ前を下回る入院患者数の小児医療拠点施設への給付金（25 万円 / 床）
- ・地域での役割分担に基づき施設改修等を行う周産期医療施設への助成（補助率 1/2）

4 農業担い手確保・育成対策事業 72,802 千円

農業者の生産性向上や規模拡大を図るため、農業支援サービス事業体の立上げに要する経費に対する助成。

- ・ニーズ調査、サービス提供の試行等 補助率 10/10
- ・スマート農業機械等の導入 補助率 1/2

5 地域あんしん給油所推進事業 27,900 千円

地域あんしん給油所登録制度を創設し、地域住民等の安心と利便性の維持・向上に必要な設備整備に対し助成。

- ・地域の見守り、価格の店頭表示、おもてなしに取り組む給油所を対象
- ・防犯カメラ、自家発電設備、価格表示板、トイレ改修等
- ・補助率 2/3（限度額 30 万円）

6 入院小児患者付添い環境改善 18,780 千円

入院中のこどもに付き添う家族が休息できるスペース設置等に取り組む医療機関を支援。

- ・施設改修に要する経費への助成（750 万円 / 医療機関）
- ・備品整備に要する経費への助成（2 万円 / 小児病床）

7 再造林促進事業 250,000 千円

主伐後の再造林を推進するため大分県森林再生機構と連携した早生樹再造林等の取組みを、ソフトバンク株式会社からの寄附金を活用して支援。

■議員提出意見書

私学助成制度の充実強化等を求める意見書要旨

深刻な少子化が進んでいる中、私立中学校・高等学校を取り巻く状況は様々な課題が山積しており、国による財政支援・制度の整備が不可欠となっている。教育基本法の趣旨等を踏まえ、私学助成に係る国庫補助制度等、様々な支援の充実強化を図るよう強く要望する。

■議員定数調査会

議員定数や選挙区及び選挙区ごとの定数を協議・調整するための議員定数調査会を設置。宮成も 15 名の委員の一員として約 9 か月間の検討に参加します。なお、見直しを行った場合は令和 9 年 4 月の一般選挙から適用されます。



議論を深め、適切な定数等を探る責任は重い。

■防災減災・県土強靱化対策特別委員会

防災減災・県土強靱化対策特別委員会は、南海トラフ巨大地震や大規模な風水害に備え、政策提言を行うために本年 6 月に設置。宮成も特別委員会の一員として令和 8 年 3 月の提言に向けた議論に参画しています。



来年末までに提言書を取りまとめるべく議論を急ぐ。

■各種団体との意見交換

自民党会派では毎年 9 月に 60 以上の様々な団体との意見交換会を集中的に開催しています。業界の実情や課題を把握し、地域に根差した活動を継続しているからこそ、国政に声を届けることができ、県政に政策を提言できると信じています。



9月2日、トラック協会と業界の深刻な課題の解決に向けた意見交換。

■商工観光労働企業委員会

9月25日から高野町を訪ね、金剛峰寺を中心に年間 140 万人が訪れる人口 2600 人の町のオーバーツーリズムの実態を調査しました。



■竹田五ヶ瀬線改良促進期成会

9月30日、高千穂町から五ヶ瀬町を副市長・議長等と訪れ、宮崎県側で進む県道 8 号の改良状況を調査し、意見交換を行いました。



- 暑い夏を過ぎ、秋雨模様の日々を経て、遅れた刈取りに量も品質も気になったが、今、最も気にかかるのはコメの価格か。
- 戦後 80 年の節目の年、この国の政治が動きつつあるが、地方が取り残されないよう”踏ん張りどころ”だと感じる毎日。
- 一般質問も 5 回目となるが、地域の課題は山積みしている。9 月末から続く県外出張で得た知識や知見を今後活かしたい。
- 今年はインフルエンザの流行が早いと聞く。まずは、よく食べ、よく寝て、よく動き、自己免疫力の強化を心掛けたい。



大分県議会議員

宮成 公一郎
(竹田市選出)



県議会報告

終戦から80年の節目の年の8月を迎えています。今も世界中で続く紛争を気にしながら、この国はいつもと変わらぬ8月を迎えています。

日々の活動の中で、皆さんが安心して安全に暮らしていただけるよう努めることこそ政治家として最も大切なことだと思っています。

今年は昭和で言えば100年の節目の年でもあり、100年後は今より良い世の中であるよう願いながら、足下の仕事に取り組んでいます。

今月号では、5月に行った県内各地での所管事務調査と6月の令和7年第2回県議会定例会における補正予算等についてお伝えします。

令和7年度大分県一般会計 補正予算(第一号)

4億1644万円増額。
累計7030億9344万円

物価高騰の影響を受けている生活者や事業者に対して、これまで県は国の対策を補完する支援を行ってきました。今回、国が行う電気・都市ガス料金への支援の対象外となるLPガスと特別高圧の価格激変緩和対策に係る予算措置を行いました。

LPガス1契約あたり780円。
※8月検針分の請求時に自動的に減額。

特別高圧(7月及び9月は10円/kwh、8月は12円/kwh)を支援。

議員提出意見書

自民党会派が提出した「里親制度の充実を求める意見書」のほか「米国の関税措置に対応した中小企業等支援策の拡充を求める意見書」など5本の意見書を採択しました。

里親制度の充実を求める 意見書骨子

近年、家庭で暮らすことができない子どもたちを公的な責任のもとで養育する社会的養護の必要性が高まっている。本県の里親等委託率は全国トップクラスであるが、緊急時の調整や現行人員配置基準での対応が困難な状況であり、国が示した目標の達成には至っていない。そうした中、本県では「乳幼児短期緊急里親制度」の導入や児童福祉施設に専任職員の配置を行ってきた。国においても里親制度の更なる充実のために次の施策を講じるよう強く求める。

1. 「乳幼児短期緊急里親制度」を国の制度として創設
2. 里親レスバイト専任職員を児童福祉施設に配置する制度の創設
3. 里親登録数を増加させるため積極的な広報・啓発活動を実施
4. 地域の実情に応じた制度充実のため予算や人員体制強化の支援

県内所管事務調査(竹田市)

県議会には6つの常任委員会が設置されており、それぞれの委員会が竹田市内の所管事務を調査しました。



100年先に繋ぐため、楽しむ・活用する・伝える・残すをコンセプトに活動する「竹田舊物部」を総務企画委員会が調査



ユネスコエコパーク関連で展開する「祖母山麓自然・人共生空間整備プロジェクト実行委員会」を福祉保健生活環境委員会が調査



農地・施設・機械・指導がセットでお試し感覚で始められる「スタートアップファームたけた」を農林水産委員会が調査



早期全線開通が期待され、工事が進捗する上軌口地区の「中九州横断道路」を土木建築委員会が調査



事業承継等に取り組む「九州アルプス製工会」を商工観光労働企業委員会が調査

商工観光労働企業委員会

各地の振興局をはじめ6日間で計26か所の現地視察等を行い、これまでの成果や今後の取組みについて所管事務調査を行いました。



県産有機麦栽培に続き、地元米を活用したフーズ加工製造を開始した白竹市野津町の移居酒造所



回収した古酒を廃棄資材に交換し、自動車用内装材として活用する事業展開をしている宇佐市の地カタロン社



2700人を超える外国人が暮らす中津市。県内初となる商業施設内に開設した中津外国人総合相談センター



中津市にある県立工科短期大学校には2学年で100名の学生が学ぶ。大分大学理工学部への編入の道も開ける



新O&S列車「かんばち号」のおもてなし駅として指定された九車町の湯良駅は、先哲資料館を併設



世界農業遺産認定を契機に六郷湖山を牽入り行のコースをベースにしたトレッキングルートを開始した国東半島筆道ロングトレイルクラブ



大分市下流方面にある県立高等技術専門校では、電気設備、自動車整備、水産建築、空調配管などの職業訓練を新卒者や社会人経験者等に行う



高平キャンプ場の若き指定管理者は、資源プリアを活かしながら道の駅がままと併せた「宿泊+体験+食」を展開

- ◎「世界かんがい施設遺産」認定の報が届く。先人の取組みが私たちの財産となり、未来に向けた勇気をいただく。
- ◎ テレビドラマ「はぐれ鴉」も秀逸。原作の構想づくりを支えた方々とともに、この先の展開にも期待を寄せる。
- ◎ 入田の中島公園が多くの子どもたちで大変な賑わい。大分市や熊本県からも涼を求めて竹田に来ているらしい。
- ◎ 観光資源は身近なところにあることを実感しながら迎える8月15日。未来が平和と活気に包まれているよう祈る日。

